

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.198

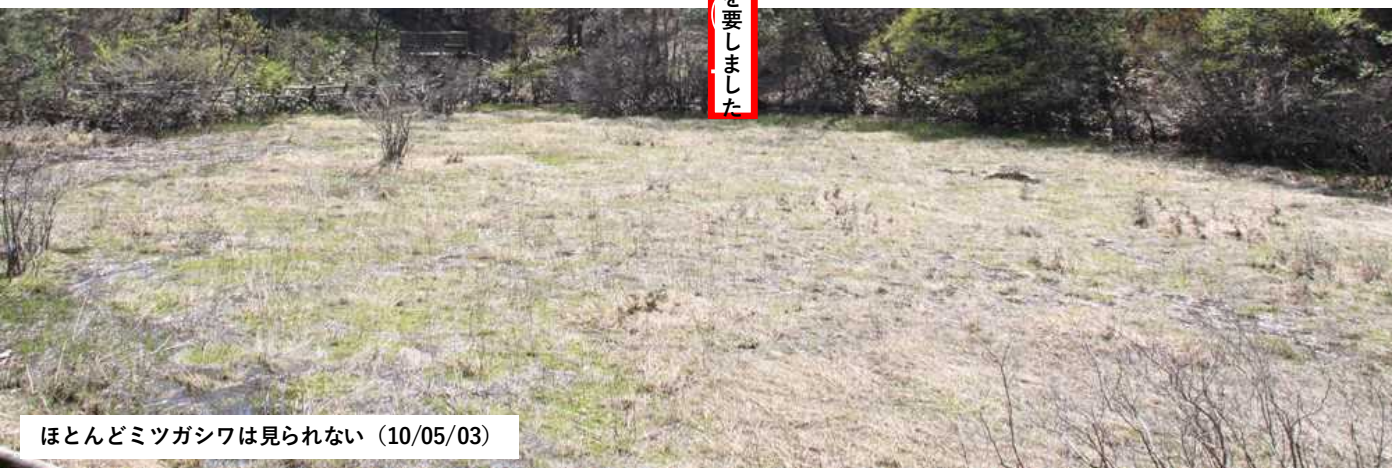
2016/05/16

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

蘇ってきたミツガシワ



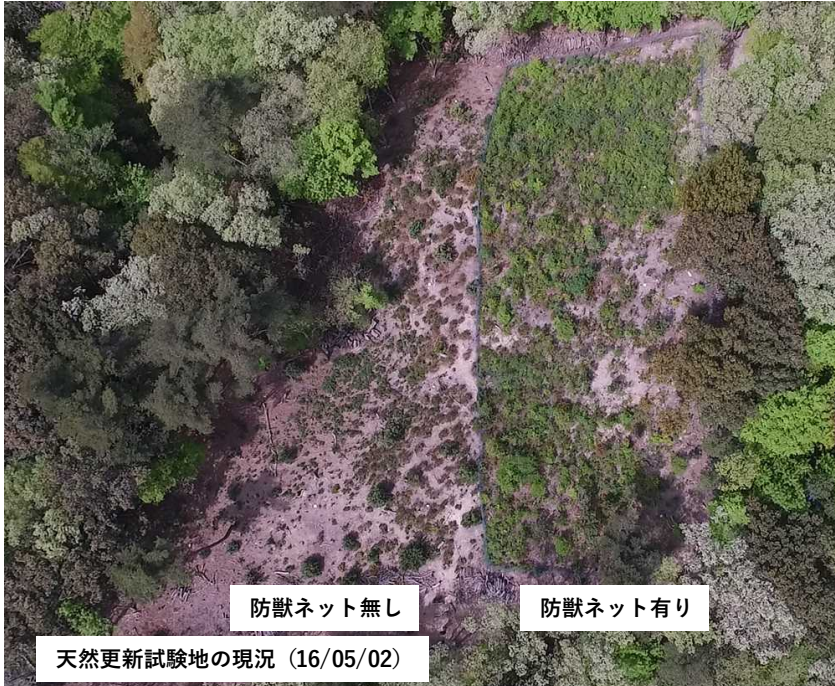
南部湿原のミツガシワ (16/05/03)

5
年
を
要
し
ま
し
た

ほとんどミツガシワは見られない (10/05/03)

2003年初頭から南部湿原のミツガシワ群落のシカによる食害が目につくようになり、2010年には湿原内の灌木の下の数株以外は花が見られない状態になりました。4万年の歴史を持つ湿原、その間にこのような状態になったことが何回かあったのではないかと痺れをきらしながら回復を待っていました。しかし、2010年の状態はこのまま放置すれば絶滅（地下茎を掘り出して食うこともあり）する可能性が高いと考え、2011年南部湿原に防獣ネットを張り、2012年には波板も設置しました。それから今日までほぼ毎日のネット巡視・積雪時の撤去・完全融雪直前の設置を繰り返してきました。そして今年やっとトップの写真の状態に戻りました。ただただ感激とともに、この間ネット巡視・設営・撤去作業に従事した会員の努力が実ったことが大きな喜びです。と同時にひとたび失った自然を取り戻すことの難しさを実感させられました。

シカの食害対策で最も早期に対応したのは、2008年からのササユリです。対策を実施した2008年はその効果もあって多くの開花を見ました。しかしそれ以降対策の上をいくシカの動きに押され年々開花株が減少していました。初期には通常の金網で対応していましたが、これを倒してまで食うと言う事態になり、一昨年からはガードフェンス（太い針金のフェンス）に変えましたが、目が粗いためそこから葉を引っ張り出して食うため、昨年からは、これに腹巻き用の金網を巻くようにし、今年初めて開花株増加の兆しが見えてきました。



シカは湿原のミツガシワや観察コース沿いのササユリを特定して食っているわけではありません。2011年皆伐を行った天然更新試験地の現況を見ると、「山門水源の森」全域で食害が進行していることがよくわかります。森の様子を上空から撮影した下の写真を見ると、ブナ・アカガシ・コナ



ラ等々多様性に富んだ森に見えます。しかし下層植生は、天然更新試験地の防獣ネットの無い側の状態になっています。下層植生が日に日に貧弱化しています。その詳細は、「山門水源の森報告集」Vol.10に書きました。「山門水源の森 2050」プロジェクトでは、シカの個体数管理（せめて1990年代後半の個体数）をするべく富岡会員を中心に調査を進めています。しかし、当面は今の植生の保全を優先する必要があります。そのため「ブナの森」から「守護岩」までの間に上ノ庄生産森林組合の了解を得てササ原再生のための防獣ネット（長浜市の助成）の設置を行いました。総延長280m（面積約9,000m²）これからはこの巡視も大きな仕事になります。



付属湿地のミツガシワは、種子から増えた株も今年は大きな花を付けました。2011年播種したブナ・2014年播種したユキグニミツバツツジ等々も順調に生育しています。夏場は管理にも気を配る必要があります。はやくから増殖をはかってきた付属湿地の植物や北部湿原のミヤコアザミは、順調に株数を増やしています。

